【プログラム】

基調講演

地域共生社会 ～新しい時代のソーシャルワークへの期待～

座長：小坂 絵里加（三重県医療ソーシャルワーカー協会 理事）

講師：原田 正樹（日本福祉大学 学長）

厚生労働省の「地域共生社会の在り方検討会議」では、包括的な支援体制の整備や重層的支援体制整備事業等をどのように進めていくか、幅広い議論が行われている。当講演では、検討会の中間報告を踏まえながら、最新の政策動向、地域共生社会の理念、背景、諸課題を整理し、今後ソーシャルワーカーに求められる役割や機能、またそのニーズに対応できるジェネリックなソーシャルワーカーを教育機関、職能団体、地域でどのように育てていくかを共に考えたい。

特別講演

人と真珠－そのかかわりを考える

座長：山田 剛（三重県医療ソーシャルワーカー協会 監事）

講師：松月 清郎（ミキモト真珠島 真珠博物館 館長）

日本人にとって最も身近な宝石である真珠。三重県の鳥羽湾に浮かぶミキモト真珠島では世界初の真珠養殖に成功し、一般社会にも装身具として真珠の価値が受容されるようになった。今回、真珠の基本的な知識、歴史に見る真珠、装身具としての魅力、今日的な「持続可能な真珠養殖」についてお話いただく。講演を通して、真珠の価値や歴史的背景を知り、過去から現在、未来へと思いを託し、価値や文化を受け継いでいくことについて、改めて感じる機会とする。

講演

複眼で見るソーシャルワークスーパービジョン － 構造化・省察・マネジメント －

座長：伊藤 隆博（神戸学院大学総合リハビリテーション学部社会リハビリテーション学科 准教授）

講師：浅野 正嗣（ソーシャルワーカーサポートセンター名古屋 / 認知症介護研究・研修大府センター）

ソーシャルワーク実践において、スーパービジョンは重要である。時代の流れに合わせて、職場内におけるソーシャルワーカーの立ち位置は変化し、必要とされるスーパービジョンも変化をしている。教育的機能、支持的機能だけでなく、管理的機能の役割に注目し理解する必要があるのではないだろうか。昨今のスーパービジョンにおけるトレンドとともにスーパービジョンとマネジメントの関係性についてご講義頂く。

講演

日本における性的マイノリティの現状と課題

ー “トランスジェンダー／性の越境者” からの問いかけ

座長：高村 純子（三重県医療ソーシャルワーカー協会 会長）

講師：勝又 栄政（宮城教育大学非常勤講師・日本学術振興会特別研究員（立命館大学））

LGBTQ+とは何かという基本的な内容について、トランスジェンダー当事者である講師自身のケースを通じて、体験談や今に至るまでのプロセスなどをお話し頂く。さらに理解を深めるための導入として家族と当事者のあり方や性と社会との関係性について学ぶ機会とする。それらを踏まえ、今後社会の中で私たちがいち個人として、医療ソーシャルワーカーとしてこのことについて考え、今後どのように行動していくかを考える機会とする。

会長会企画講演

ソーシャルワーカーに花束を…！

登壇者：藤井 由記代（大阪医療ソーシャルワーカー協会代表理事）

荻 津 守（栃木県医療社会事業協会会長）

中瀬 香里（鳥取県医療ソーシャルワーカー協会会長）（予定）

日野 隆（山口県医療ソーシャルワーカー協会会長）（予定）

聞き手：中村 敬（会長会代表/静岡県医療ソーシャルワーカー協会会長）

多忙な業務に日々追われ続け、中には疲れてしまったり自信を無くしたりしている方がいるかもしれませんが。そんなあなたに希望と癒しをお届けします。中村会長会代表が聞き手となり、4府県協会長から全国の現役ソーシャルワーカーに向けて、「私たちはこんなに頑張っているんだ」「これでいいんだ」「明日からも自分らしくやっていこう」と思えるような、心温まる（むしろ熱くなるかもしれない）メッセージをいただこうと思います。

講演

2025年の地域医療構想と2040年に向けた取り組み（仮）

講師：厚生労働省（調整中）

国はこれまで、中長期的な人口構造や地域の医療ニーズの質・量の変化を見据え、2025年に向けた医療機関の機能分化・連携を進め、良質かつ適切な医療を効率的に提供できる体制の確保を目的に地域医療構想を推進してきた。ポスト2025年の目指すべき医療提供体制の基本的な考え方や新たな地域医療構想の方向性を踏まえ、85歳以上の高齢者の増加に伴う高齢者救急や在宅医療等の医療・介護需要の増大等、2040年頃を見据えた課題に対応するため、医療ソーシャルワーカーが取るべき役割について学びたい。

指定講演・シンポジウム

外来・在宅医療の推進と医療ソーシャルワーカーの役割（仮）

シンポジスト：厚生労働省（調整中）

日本医療ソーシャルワーカー協会 外来ソーシャルワークチーム（調整中）

日本医療ソーシャルワーカー協会 小児・周産期ソーシャルワークチーム（調整中）

地域の患者・要介護者を支えられる地域全体を俯瞰した新たな地域医療構想では、85歳以上の高齢者の増加に伴う高齢者救急や在宅医療等の医療・介護需要の増大等、2040年頃を見据えた課題に対応するため、入院に限らず外来や在宅医療などの医療提供体制全体を対象とした医療提供体制が進められる。その中において医療ソーシャルワーカーがどのような役割を担っていくべきか、議論したい。

シンポジウム

東海4県MSW協会共同企画～在宅医療分野におけるMSWの可能性2～

座長：水野 大介（一般社団法人 愛知県医療ソーシャルワーカー協会 会長）

シンポジスト：吉川 晴子（医療法人 SIRIUS いしが在宅ケアクリニック）

鈴木 秀季（医療法人青嶺会 木の香往診クリニック）

榎並 貴斗（あおい在宅クリニック）

浜崎 さおり（医療法人社団 心 坂の上ファミリークリニック）

人生の最終段階に関わることの多い在宅医療分野では、ACPに基づくケアをベースにしつつ、多職種連携による診療の質の向上、地域包括ケアシステム実現に向けた地域アプローチまでその活動の幅は多岐にわたる。大分大会からテーマを引継ぎ、東海4県のMSWの実践報告を通して、MSWの原点にある価値に立ち返り、在宅医療の普及推進におけるさまざまな課題を検証しつつ、在宅医療分野におけるMSWの可能性についてディスカッションを行う。

シンポジウム

治療と仕事の両立支援 ～当事者の思いと多面的な支援～

座長：早坂 由美子（北里大学病院）

シンポジスト：坂本 はと恵（国立がん研究センター東病院）

川崎 由華（がんライフアドバイザー協会）

大西 幸次（三重県がん相談支援センター）

がん罹患する割合は2人に1人とされており、治療しながら就労することが当たり前の時代となってきた。患者はトータルペインを抱えている中で職場との相談調整が必要不可欠である。今回のシンポジウムでは実際に治療と仕事を両立されている当事者と多面的に関わる支援者の立場から、治療と仕事の両立支援についてご講演頂き、MSWの役割・支援の在り方を改めて再確認する場としたい。

シンポジウム

**世代を超えて医療ソーシャルワーカーのスピリッツを引き継ごう！
～変わらぬ価値と変えていく実践～**

コーディネーター：保正 友子（日本福祉大学 社会福祉学部長）

シンポジスト：

鈴木 志保子（三重大学医学部附属病院 総合サポートセンター専門職員）

野口 陽介（医療法人社団輝生会 本部 地域連携支援部長 兼 ソーシャルワーク・ケアマネジメント部門部長）

小川 彩（社会医療法人河北医療財団 河北総合病院 入退院・地域情報センター ソーシャルワーク科科长）

MSWの実践、教育、管理業務を含め、スピードや効率性が一層求められる現代だからこそ、「MSWとして譲れない核心であるスピリッツ」を持ち、次世代に引き継ぐ必要があります。当シンポジウムでは、自機関のトップマネージャーとして活躍する3人より、「変わらぬ価値と変えていく実践」をお話しいただきます。世代を超えてバトンをつなぎ、誰もがMSWとして輝き続けるために、何ができるのかを一緒に考えていきましょう！

シンポジウム

医療的ケア児の在宅生活支援について（仮）

シンポジスト：岩本 彰太郎（みえキッズ&ファミリーホームケアクリニック院長）

宮副 和歩（全国医療的ケアライン I-line 事務局）

山根 春香（Restars☆（リスター）代表：母による母のためのグリーフケア）

島 優子（社会福祉法人愛恵会 相談支援事業所こだま 管理者）

普段支援しているクライアントの家族は、もしかすると医療的ケア児者の家族ではないですか？普段小児科の関りが少ない方にも聞いてほしい企画です。医療的ケア児者と家族の成長と発達をふまえた支援のありかた、子どもを亡くした親の思い、また全国的な活動をされている講師の最先端の視座を学び、私たちSWがなすべきことを一緒に考えます。この世で一番小さな手をしっかり握りしめることができるように。

シンポジウム

実習指導者養成認定研修開催 25周年記念企画

実習指導者養成認定研修の25年の歩みとこれから

シンポジスト：田中 千枝子（日本福祉大学 教授）

福山 和女（ルーテル学院大学 名誉教授）他

実習指導者養成認定研修が協会事業として開催するようになってから25年になります。その間に、2000名近い受講者・登録者を排出し、研修内容についてもFK理論を基に進化し、発展してきました。そこで、実習指導者養成認定研修を通じ、我々日本医療ソーシャルワーカー協会の軌跡の振り返りや、ソーシャルワーカー養成としての意味と将来の展望について、シンポジウム形式で皆様と共有できればと思っています。

シンポジウム

ハンセン病回復者が置かれている現状

座長：古賀 宣文（ハート相談センター）
シンポジスト：小川 秀幸（三重テレビ報道制作局 制作局長）（予定）
樋口 美智子（ゆうな協会）
古賀 宣文（ハート相談センター）

ハンセン病回復者の歴史を振り返り、ハート相談センター、三重県で啓発活動をされているジャーナリスト、沖縄県のゆうな協会から活動報告をいただく。そのうえで、ハンセン病回復者の地域生活における課題を参加者と共有し、ソーシャルワーカーに問われている価値や倫理について考察を深める。本シンポジウムをとおして「人権」とは身近な所にあり、ソーシャルワークにおいて常に敏感に対応する事が重要だと確認する。

シンポジウム

令和6年能登半島地震を基軸に災害時のソーシャルワークを考える

座長：笹岡 真弓（日本医療ソーシャルワーカー協会 理事）
シンポジスト：立木 茂雄（同志社大学 社会学部教授）
珠洲市役所職員（交渉中）
小原 眞知子（日本医療ソーシャルワーカー協会）
指定発言者：福井 康江（日本医療ソーシャルワーカー協会）

日本はこれまで多くの災害を経験し、支援の形態は進化し多様化してきました。支援活動の「継続」と「移譲」に焦点を当て、地域の復興力をどのように高めるかについてともに考えたいと思います。石巻支援活動後、引き続き当協会は珠洲市の支援活動を行っています。被災地の行政から見たソーシャルワーカーへの期待と現状について、また世界の被災地のソーシャルワーカーの活動の状況を踏まえ、医療ソーシャルワーカーは災害時にどのような役割を担うのか、改めて考える契機としたいと思います。

シンポジウム

医療ソーシャルワーカーの実践力と資質向上における協会の取り組みとその意義

座長：小原 眞知子（日本社会事業大学）
司会：名田部 明子（野村病院）
シンポジスト：片岡 靖子（久留米大学）
郡 章人（徳島県鳴門病院）
堀越 由紀子（星槎大学）
小川 彩（河北総合病院）

認定医療ソーシャルワーカーは、「倫理綱領に基づき、保健医療分野において社会福祉実践に関する専門知識と技術を有し、科学的根拠に基づいた業務の遂行、及びスーパービジョンを行うことができる能力を有する」人材として、当協会がその実践力を担保する資格です。シンポジウムでは、制度の背景にある期待、スーパービジョンの重要性、資格取得者の現場での取り組みなど、様々な視点から取得意義を理解する機会を提供します。

シンポジウム

医療機関における身元保証人問題の解決に向けて ～全国調査・神奈川県協会の調査を踏まえて～

シンポジスト：林 祐介（日本福祉大学）
佐野 晴美（JCHO 横浜中央病院）
四日市市社会福祉協議会（予定）

身元保証人問題チームは、2017 年度より活動を開始した。まず、医療機関における身元保証人問題の整理を行いガイドブックにまとめ、次に厚生労働省からだされた「身寄りがない人の入院及び医療に係る意思決定が困難な人への支援に関するガイドライン及び事例集」に基づく院内マニュアル作成の普及啓発に資する研修、ガイドラインで解決のつかない問題等の提起を行い、協会としての要望書提出につなげてきた。2024 年度の全国大会では「身寄りがないこと」が当たり前になることを前提とした制度設計の必要性について共有し、2025 年度は 2024 年度に日本医療ソーシャルワーカー協会が実施した調査及び神奈川県協会が実施された調査の共有とその結果に基づく、医療機関における解決方法について地域共生社会の視点で意見交換を行いたい。

ワークショップ

リカバリーカフェ

講演者：猪野 亜朗（泊ファミリークリニック副院長）
企画・運営：日本医療ソーシャルワーカー協会 社会貢献事業部 依存症リカバリーソーシャルワークチーム

MSW が一般医療の場で潜在化するアルコール関連問題を早期に発見し、早期に関わることがますます求められている。昨年度の大分大会に続き、「リカバリーカフェ」という対話の場を開き、MSW 同士の顔のみえる関係づくりと気軽な相談の場づくりを目指す。日ごろ依存症の患者・家族への関わりに悩んでいる人、一人でどうしたらよいか悩んでいる人、取り組みたいけれどどうしたらよいかわからない人など、ぜひのぞいてほしい。

ワークショップ

地域の受援力と地域外からの支援 － 職能団体としての災害時行動指針を考える－

登壇：都道府県医療ソーシャルワーカー協会及び日本医療ソーシャルワーカー協会代表者
進行：日本医療ソーシャルワーカー協会 災害福祉支援チーム

シンポジウムでの企画をふまえ、本ワークショップでは、都道府県医療ソーシャルワーカー協会（以下、都道府県協会）間、都道府県協会と当協会との連携を深め、災害時の行動指針の整備について意見交換を行います。同時に「受援」と「支援」の両面で整合性を持った実践的な指針の構築の契機になればと思います。

オンデマンド配信

救急認定におけるソーシャルワーカーのつどい

救急医療の場面における意思決定支援～救急認定ソーシャルワーカーに求められるスキルと役割～

座長：野村 裕美（同志社大学 社会学部社会福祉学科 教授）

講演「救急医療における意思決定支援のポイント・解説」

講師：石上 雄一郎（飯塚病院 連携医療・緩和ケア科）

実践報告：西川 和典（日本赤十字社 長浜赤十字病院）

救急認定ソーシャルワーカー事務局より活動報告・申請案内

報告者：福森 優司（大阪大学医学部付属病院 高度救命救急センター ESW）

救急医療の現場では、治療がおこなわれるなかで、本人・家族は戸惑いながらも意思決定をしなければいけない。そのような状況の中、救急認定ソーシャルワーカー（以下 ESW）は家族が納得して意思決定できるように支援が求められるが何を根拠に何を大切に意思決定支援をすればよいのか迷う場面も多々あり葛藤することも少なくない。救急医療における意思決定支援のポイントやスキルを学ぶとともに ESW の実践報告から求められている役割、多職種とのコミュニケーション・連携についてもディスカッションし学ぶ機会としたい。

オンデマンド配信

シンポジウム 医療基本法の必要性と現在地

パネリスト：漆畑 真人（国立精神・神経医療センター）

水溜 丹都子（兵庫県災害医療センター）

大里 文誉（九州医療センター）

ファシリテーター：今尾 顕太郎（別府大学 准教授）

医療基本法を現場でどう活用できるのかを学ぶ実践的な機会です。現役 MSW が実際に直面した課題やその対応事例を通じて、医療基本法がソーシャルワークに与える影響や活用の可能性を探ります。

企画内では、現役 MSW が直面した葛藤するような場面やケースを紹介し、パネルディスカッションによる参加者同士の意見交換を利用して、具体的な考え方や対応を検討します。現場での応用を深めるチャンスです！

アルコール体質判定体験ブース

「あなたは飲める体質？飲めない体質？それとも？」

アルコール体質判定テストを無料で実施します。依存症を身近な問題として経験することを通し、依存症支援の重要性を共有してみませんか？

ポスター展示

全国の医療ソーシャルワーカー協会の災害時行動指針等の取り組み紹介

日本医療ソーシャルワーカー協会 災害福祉支援チーム

全国都道府県医療ソーシャルワーカー協会、日本医療ソーシャルワーカー協会の災害時行動指針等の取り組みをポスター掲示でご紹介します。全国大会開催中に災害支援企画が行われているものとも連動します。医療ソーシャルワーカーの組織としてどのような活動をしているのか、またしていくことがよいのかを考える情報としてお立ち寄りください。

<第45回日本医療社会事業学会> 口頭発表・ポスター発表・質疑応答

<公益社団法人日本医療ソーシャルワーカー協会第15回社員総会>

<全国会長会> 会場実施+Zoom ミーティング

プログラムは2025年1月21日現在のものです。

事情により変更する場合がありますのでご了承くださいませ。

詳細については順次、大会ホームページにてお知らせいたします。

<https://cs-oto3.com/jaswhs2025/>